令和４年度　朝来市立枚田小学校　学校評価

年度末はこの様式にて提出してください。

※文書表現で記入してください。

学校教育目標

ともに学び　ともに育つ
～聴き合い　つながり合い
学び合う力の育成～

総合的な学校関係者評価

・コロナ禍による制限がある中、創意工夫をし学校行事や学校運営協議会としての活動が進みつつある。教育活動への協力と参加、学校運営協議会だよりの発行は大きな成果だった。
・自分の故郷を見直す機会が減り、あいさつや見守り、声かけなど、家庭や地域として教育力の低下が課題。創立150周年をきっかけに学校、家庭、地域の連携を深めていきたい。
・対話力やコニュニケーション力の課題が見える中、子どもたちの学習に対する興味、関心を高め「勉強が楽しい」と思える授業、教育活動が今後とも重要である。
・職員同士の交流や意思疎通の場が作りにくい中で、一人一人高い意識をもって取り組んでいることが共有でき、組織として機能する手立てを講じていきたい。
・業務改善が進みにくい実情があるが、残業時間だけでなく、人間関係を大事にし個々の心の負担の軽減も大切にした働き方改革を進めてほしい。

自己評価　　達成状況（Ａ：達成している　Ｂ：概ね達成している　Ｃ：あまり達成していない　Ｄ：達成していない）

	評価の観点		達成状況	学校の取組状況・今後改善すべきこと	自己評価の妥当性 （評価項目ごとの学校関係者評価・意見等）
学校運営	地域とともにある学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	A	・学級、学年だよりでの週予定の配信、月2回の学校だより等情報発信に取り組むことができた。より充実した内容を提供できるよう改善したい。 ・2回の学校運営協議会だよりを発行した。更に活動の周知に向けて取り組みたい。	・定期的に発行されている「PTA会報」の地域内（校区内）への学校情報発信効果は、全住民に絶大なものであり一層の紙面充実を期待する。 ・学校運営協議会だよりや学校だより等で地域として学校や子どもたちが身近に感じられる。学校運営協議会の実質的な活動が始まった年となった。 ・地域、保護者の協力を得た行事が行えた。 ・今後いかに地域スタッフを増やしていくかが検討課題になる。 ・いじめ問題の根絶は厳しいと思われる中で、いわゆる「弱い者いじめ」は絶対だめといった、強い指導を望む。 ・社会でのいわゆる「弱者」の方々に対して、優しく、温かく見守り、接するという気持ちを育む指導を学校生活の中で自然体で実施してほしい。 ・いじめや不適切行為への指導において、学校の対応等が家庭に理解され、協力が得られることが子どもの成長にとって大事だと考える。 ・下校の様子は1学期は良かったが、2学期以降心配する面があった。 ・来校時に見かける児童の掃除への取り組み方が気になる。 ・自転車の乗り方、挨拶など地域での過ごし方に課題がある。 ・挨拶については、地域住民にも広く根気強く子どもに声をかけて欲しいということをお願いし、家庭や地域を巻き込んでいく必要がある。 ・自分の子や地域の子どもたちにあいさつや声かけ、生活面で気をつけていこうという意識が希薄になっていると感じる。 ・PTA全体で学校を盛り上げる必要性を感じる。 ・地域でも防災訓練が訓練のための訓練になっている。南海トラフ地震も現実味を帯びる中、緊張感を持って取り組めるような訓練を計画したい。 ・読書習慣の定着が課題。「家族デー」と抱き合わせ家庭での楽しみにしたい。 ・適切な支援を受け、自立し社会生活を送っている事実は多く見受けられる。根気よく愛情を持ってご指導いただきたい。 ・支援を必要とする子への向き合い方を先生方が同じベクトルで進めてほしい。
		オープンスクール（学校公開）など住民参加の教育活動の推進	A	・コロナ禍において創意工夫しながら授業参観等を実施することができた。 ・学校運営協議会の活動として、行事や校外学習で地域スタッフの方に参加していただき、児童と一緒に活動しサポートを受けることができたのは大きな成果だった。	
	生徒指導	豊かな集団生活が営まれる学級づくり	A	・児童の内面理解に基づいた学級づくりの大事さを全職員で共有し落ち着いた学校生活を送ることができるよう取り組んだ。 ・学級通信を定期的に発行し、学習の様子等をこまめに伝えることができた。 ・読書活動や「家族デー」の推進が引き続き課題がある。家庭への協力の工夫。	
		児童生徒の内面理解を図る指導の工夫	B	・児童に関わる誰もが児童理解、内面理解を深めていくことが今後も生活指導の充実において必要。 ・普段からの定期的な情報共有が児童理解において成果につながった。	
		いじめ、不登校、問題行動、ネットトラブル等への適切な対応	B	・生活指導事案に対して家庭との連携を取りながら対応した。ネットトラブル、不登校傾向の低年齢化等を課題とし楽しい学校生活を送るための学校運営を推進したい。 ・挨拶、言葉遣い、安全帽子、名札の着用等引き続き足並みをそろえた指導をしたい。	
	危機管理体制の整備	マニュアルの点検・見直し	A	・様々な危機管理に対応できるようマニュアルや職員の動きについて確認することができた。 ・水害対応、不審者対応訓練実施後の課題等について今後見直しを行いたい。	
		地域課題に応じた防災、防犯教育の実施	A	・感染症対策をしながら避難訓練、引き渡し訓練、職員向けの防犯研修等計画通りに行うことができた。 ・異常気象等による急な災害時に柔軟に対応できる職員体制を構築していきたい。	
	特別支援教育	インクルーシブ教育の推進、校内の指導体制、個に応じた指導	A	・特別支援教育を基盤にした授業のユニバーサルデザイン化を進め、授業改善に取り組んだ。個に応じた学習支援のあり方も更に深めたい。 ・特別支援教育ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰと連携し、就学指導、支援指導計画の作成、継続した支援につながるよう進めていきたい。	
	安全安心に過ごすことができる学校づくり	新型コロナウイルス感染症対策	A	・「持ち込まない・広げない」を基本に感染症対策を講じた。養護教諭を中心に予防対策を共有し実施した。引き続き危機意識を持っていきたい。 ・その都度国、県、市の通達や対処法を共有し、保護者対応にあたるよう心がけた。	・コロナ禍の中、児童も職員も大変だったと思うが、工夫し感染症対策を講じた行事等が実施されていた。
	あさごドリームアップ事業	特色ある学校づくり	B	・コロナ禍の中で、伝統文化、絵画、体力づくり等、学校だけではできない専門的な学びを体験することができたことは大きな成果だった。 ・枚田小学校の特色を生かした学習を学年の系統立てて計画していく。	・あさごﾄﾞﾘｰﾑｱｯﾌﾟ事業での様々な体験学習が良い。地域には、彫刻家、絵画、手芸等に秀でた人材がおられるので学校運営協議会につないでいきたい。 ・様々な事業展開は評価できる。内容の見直し等精査してしていく。
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	主体的・対話的で深い学びの視点に立ち情報活用能力育成を含めた授業改善、授業のＵＤ化の推進	A	・主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりを目指し校内研修を進めた。授業での聞き合い、話し合い等が活発になるための環境整備、発表の仕方などを整えた。 ・研修テーマに基づいた校内研修を進め、全職員の授業公開も計画通りにできた。	・全体としては落ち着いて学習している。がんばりタイムの取組。 ・ﾀﾌﾞﾚｯﾄ、PC、電子黒板等多様な教育機器を使用して授業が展開されている。 ・先生方が工夫しながら魅力ある授業づくりをされている。 ・学力に関する課題など、学校だけでなく様々な要因が影響している面があるが、「勉強って楽しい」と思うことができるのは学校の力が大きい。子どもたちの「やる気スイッチ」を見つけてやってほしい。 ・道徳教育、人権教育は心の内面に関わる教育なので難しいと思うが、ニュースなど「これは使える」ものも活用し子どもたちが深めていける学習をお願いしたい。
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の充実	指導内容・指導方法の工夫改善、評価方法の創意工夫	B	・がんばりタイムでの個別指導は効果が大きい。 ・児童が主体的に学ぶための家庭学習の工夫に取り組んだ。成果のある取組を共有していきたい。個に対する支援を基本に分かる授業づくりを推進したい。	
	道徳教育	授業研究の充実と指導の工夫	A	・道徳の授業づくりについて校内研修を進められた。中心発問と基本発問の位置づけや核となる場面設定など検討していきたい。 ・教育活動全体を通して道徳性や思いやりに満ちた人間関係の育成に努めていきたい。	
	総合的な学習の時間	全体計画に基づく工夫改善	B	・枚田小学校の特色とは何かを打ち出し、特色ある学校づくりと合わせて、総合的な学習にも生かして行くことが必要。 ・創立150周年を迎える中、枚田地域を主とした学習を進めていきたい。	
課題教育	人権教育	人権尊重の精神の育成	B	・LGBT等、新たな人権課題もある中職員の人権意識の向上に向けた講演会への参加など、研修を積極的に進めたい。 ・全校朝会やひらタイムを活用して児童の人権意識の高揚を図っていきたい。	・円山川での自然観察、町内事業所訪問授業等、積極的な取組ができていた。 ・今後の取組として「老人福祉施設」関連への出張授業を検討できないか。 ・映画の日をつくるなど（人権）人の心を考える機会を共有できたらよい。 ・市役所水道課の出前授業は、市の本幹を知ることができ学びになると思う。 ・農業、畜産業など食育や命の大切さにつながる機会なので積極的に組み入れていきたい。 ・スキー教室は、天候問題や感染症の観点から実施が難しい面がある。それに伴い、スケートに変更している事例もあるので検討してはどうか。 ・キャリア教育は広範囲すぎて理解が難しい。一般的にも分かりやすい言葉になればよいと思う。
	体験活動の充実	自然学校、トライやる・ウィーク等を含めた体験活動の充実	A	・コロナ対応により自然学校等内容変更もあったが、地域の方を交えての体験学習や金管バンドの枚田岡文化祭への出演など活動の場が少しずつ増えてきた。 ・地域との協働を推進するために人材マップ、情報マップの作成を検討したい。	
	食育の推進	栄養教諭と連携した食育の推進	A	・日頃から栄養教諭と連携した食育指導が実施できている。更に「食育委員会」とのコラボキャンペーンなどの活動を計画したい。 ・給食指導も含め、食育の大事さを全教育活動の中で推進していきたい。	
	キャリア教育	進路選択能力の育成・社会的自立に必要な態度や能力の育成	B	・キャリアパスポートの活用、意識した取組が必要。 ・発達段階に応じて、学校全体の生活目標や自分の目標を振り返る活動を取り入れ、自分自身を顧みる経験を積ませていきたい。	
その他	・主体的に考え議論したくなる授業づくりを目指した取組 ・業務改善に向けた取組 ・学力向上		A	・授業の中で、話すこと、聞くことを大事にするために、学習規律や発表の仕方、声のものさし等を全校で共通理解し、取り組むことができた。掲示物も新たに作成することができた。 ・更に話す力、聞く力を高めるための練習や授業方法を研究し、他者に伝えていくコニュニケーション力を付けて行きたい。 ・電話サービスのモデル校として実施、検証を行った。家庭の協力も大きく混乱もなく運用している。時間帯や折り返しの連絡の徹底等、課題を今後の改善につなげたい。 ・本校児童の学力に関する傾向を把握、検証し、1時間の授業でどの子も満足できる、楽しいと思える授業づくりを授業のUD化と合わせて研修していきたい。	・子供たちは地域の行事がコロナ禍で中止となり故郷を見直す機会がなくなりつつある。同時に地域の大人たちも子供と向き合う面が減少し、地域の教育力は減少していることは学校教育の今日的課題であると思う。 ・来年の創立150周年は無理のない範囲で盛り上げられたらと思う。。 ・保護者の価値観や考え方も多様化している。また。配慮が必要な児童も増加している。課題も多いが児童に寄り添った指導をお願いしたい。 ・先生方が教育に対し高い意識を持って臨んでいる反面、コロナ禍が続き、交流の機会の減少、お互いの表情も見えないことが意思疎通の弊害になっていることを先生方も危惧されている。学校だけでなく社会全体の課題であるが、集まる場や交流など、厳しい中にもﾌｧｯﾄﾎｰﾑな現場を形成してほしい。 ・景気回復の兆しが見えない中、働き方改革も進んでいない実情がある。残業時間のみならず人間関係や業務の効率化など先生方の心の負担を軽減していくことを望む。